早稲田商学第 441・442 合併号
2 0 1 5 年 3 月

消 息

片山覚先生をお送りするにあたって

片山覚先生は，2013年３月に早稲田大学を定年退職なさいました。私たちにとって大切な先輩であり，いつも穏やかに，かつ，しっかりと商学部を支えてくださった片山先生のお人柄について少しご紹介させていただきたいと思います。

1961年に第一商学部に入学された片山先生は，染谷恭次郎先生の指導の下，財務会計の研究に没頭され，1965年には大学院商学研究科修士課程，67年に同博士課程に進学されました。69年４月から72年３月までは商学部の助手を務め，その間の69年９月から71年１月まではペンシルバニア大学大学院への留学も経験されています。帰国後の72年４月に商学部の専任講師に就任され，75年４月に助教授，86年４月に教授に昇任されました。

商学部内では，1980年３月から1981年７月までは教務担当教務副主任，92年９月から94年９月までは学生担当教務主任を担当され，84年10月から86年９月，90年10月から92年９月までの２度にわたって産業経営研究所の幹事をお務めになりました。94年６月から97年11月までは大学の商議員の職にもありました。

教授会などの会議の場で，片山先生はとくに多く発言なさる先生ではありませんでしたが，先生の一言二言は，こじれていた議論の方向を修正するような力をもっていました。先生のお人柄のたまものと思います。

学生の教育面では，まさにきめ細かい指導をなさる先生でした。あるとき，かなり使い込んだように見える段ボール箱を抱えた片山先生とエレベータで遭遇しました。そのとき先生は「５回レポートがあったので」とおっしゃったのですが，私には意味がわかりませんでした。よくよく伺ってみると，学生のレポートを宅配便でご自宅に送り，読み終わったものをまた大学に送るという方法を５回繰り返したということで，使い込んだ段ボール箱は大学と先生のご自宅を５往復したものだったということでした。

担当されていた「経営分析論」では，学生に，日経新聞を毎日読み，「日経メモノート」を毎日書くことを義務づけていたそうです。そのメモノートを３週間ごとにレポートと

して提出してもらうことになっていて，先生はすべてに目を通し，一つ一つにコメントを書いて学生に返却していらしたそうです。最初はいやいやレポートを書いていた学生が，徐々に新聞を読むことに慣れ，決算書や財務諸表から企業の実態を分析して自分のことばでまとめることが出来るようになっていく，その過程が先生の教育そのものです。このお話を聞いて，片山先生が学生に学んでもらいたいと思ったこと，学問の意義がこうやって伝わっていくのだととても感激しました。

授業以外でも，温かく穏やかな片山先生にご挨拶をするとなんだかほっとしました。朝，早稲田駅でお目にかかり，お話をしながら大学まで歩いてきますと，道ばたやキャンパスの花や木について触れ，季節の移り変わりについて楽しそうにお話しされるのがつねでした。

2009年に竣工した11号館の前に「花の木（花楓）」とハクモクレンがあることをご存じの方も多いと思います。近づいて見ると「花の木」にはこのようなプレートがついています。

「新11号館の竣工を記念して新しく花の木を植えることにしました。春に小さな花が咲き，その美しさからこの名がつきました。別名を花楓といいます。新たに商学部の歴史を刻んでいきます。 早稲田大学商学部教職員有志・片山覚ゼミ一同」

ハクモクレンは，旧11号館前にあったものを再現するように植樹されています。花の木とハクモクレンが対になり，春には可憐な花を咲かせて，商学部生を見守ってくれています。

定年退職後の片山先生は，他の大学でのお仕事などはなさらないそうですが，これまで係わっていらした商工会議所簿記検定試験専門委員や，日本私立大学連盟学校会計委員会委員長などのお仕事は継続されるということです。授業の負担がない分だけ，ご自分の時間は増えると思いますが，まだまだ忙しい日々をお過ごしのことでしょう。

散歩やタウンウォッチングがご趣味と伺っていますので，健康維持のためにもぜひご趣味を続けて，お元気でご活躍くださるよう願っています。

商学部がこれまで片山先生から賜りましたご恩に心から感謝いたします。

早稲田大学商学部長
嶋村　和恵